

# 地域包括ケアに関する取り組み

城南区

## ○概況

令和5年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 城南区は市のほぼ中央部に位置する住宅・文教地区である。区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する平成外環通り等の整備により、交通利便性の向上が図られている。大規模団地に加え中小の宅地開発が進み、急速に市街地化・住民の定住化が進んだ結果、全市平均を上回るスピードで高齢化が進み、高齢化率が全市で1番高い状況である。  【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率は全市で1番高率だが、別府校区の19.5%から堤丘校区の34%と校区でも幅があり、特にUR等大規模団地を抱える町内では高齢化が進んでおり、独居・閉じこもりや認知症、8050問題等の高齢者支援の取り組みが急務となっている。  【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 地域における高齢者向けのサロンやカフェ等は新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を中止した地域も多かったが、R4年度になり徐々に活動が再開している。医療機関や介護事業所の分布は圏域毎に異なり、病院は区内9か所。区内の福岡大学病院は、平成26年に認知症疾患医療センターの指定を受けている。 令和4年4月より城南警察署が開設され、さらに連携が取りやすくなっている。	人口（人）	124,700
	高齢者数（人）	32,229
	高齢化率（%）	25.8
	小学校区数 （自治協議会数）	11
	いきいきセンター 圏域数	5

## ○地域包括ケアに関する現状と課題

<ul style="list-style-type: none"><li>・介護予防については地域での啓発や自主的な活動が推進され、市民の意識も高まってきている。より身近な場所で介護予防の取り組みを実践できるよう通いの場の創出等取り組みを継続していく必要がある。</li><li>・市民の医療・介護等について事前に備える必要性への意識は、まだ低い印象がある。在宅医療・介護に関する市民啓発が、今後更に必要である。</li><li>・医療・介護の専門職は各団体に計画された研修会にて同職・多職種間の連携強化・資質向上が図られているところだが、今後ますます加速する高齢化への対応を進めていくためには、専門職の更なる在宅医療・介護に関する知識向上及び連携強化を進めていく必要がある。</li><li>・認知症高齢者の増加に伴い、虐待や金銭管理、消費者被害などの権利擁護に関する支援が必要な高齢者も増えている。今後地域の見守りなども含め関係機関との連携がますます必要になってくると思われる。</li></ul>
--

## 1. 令和5年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容	
<p><b>①在宅医療・在宅介護の推進に向けた取組み</b></p> <p>【市民啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ACPの過程を体験し、日頃の意思決定支援に役立つ「もしバナゲーム」を専門的に実施している講師陣を迎えて市民向けの講演会を開催。「自分にとって何が大切か」を話し合う「もしバナゲーム」を通して、余命わずかの想定で、自らの価値観を考える機会になればと考える。</li><li>・エンディングノート・チラシ『もしものためのACP』のPR活動の継続。</li></ul> <p>【専門職向け】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ACPは死だけを見つめるのではなく、「もしもの時のために、自らが望む生活や医療、介護について、前もって考え、周囲の信頼する人たちと繰り返し話し合い、共有する取組み」であるということケアマネジャーや専門職へ啓発していくことが必要である。ネット支援員がケアマネジャーを対象に実施したインタビュー調査の結果をもとに焦点を絞った研修を企画。</li><li>・ネット支援員がケアマネジャーを対象に実施したインタビュー調査の結果の報告。</li><li>・エンディングノート・チラシ『もしものためのACP』のPR活動の継続。</li><li>・個別支援会議等に参加し、ACPの視点での助言。</li></ul>	
<p><b>②よかトレ実践ステーションの創出及び活動支援</b></p> <p>よかトレ実践ステーション施設版は、令和2年度以降、計画的に創出を行っており薬局や整骨院、公民館等が登録されている。公民館のよかトレ実践ステーションは現在11か所中8か所が登録、常連参加者もあり通いの場として定着している。今後は、公民館等を対象としたよかトレの啓発やeスポーツを活用したよかトレ実践ステーション交流会を行うなど活動支援を行っていく。</p>	

## 2. 令和4年度の実績状況

### (1) 地域ケア会議の状況

<b>① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）</b>	
個別支援会議開催状況	・会議回数：12回/23件（内、介護予防型個別支援会議5回/14件）
<b>② 住民同士の助け合い・支えあい活動</b>	
<p style="text-align: center;"><b>「ビッグボス？を探せ!!」</b> ～認知症高齢者捜索体験～（田島校区）</p> <p>令和4年11月13日に町内に住む認知症高齢者（ニックネーム：ビッグボス？）が外出したまま行方が分からなくなったことを想定し小学生や子ども会、介護施設のスタッフ、ボランティアがグループに分かれ捜索する体験を行った。令和元年度の開催に次いで3回目の開催であったことや、事前に校区社協会長が商店などを周り事業説明を行ったことで、町内の飲食店や理髪店の方からもご理解・ご協力を得られ、町内の商店などを含めた地域の見守り体制の強化につながる活動となった。参加した小学生も今回の体験を通して声かけ方法や困った方を見つけた時の相談先を知る機会にもなっていた。</p>  <p style="text-align: center;">「どうしましたか？」とゆっくりとした口調でビッグボス？に話かける様子</p> <p style="text-align: center;">お店を訪ねる子どもたち</p>	<p style="text-align: center;"><b>『みんなで歩こう！宝台団地ウォーキングイベント』</b> （堤地区）</p> <p>宝台団地は高齢者数が堤地区内で最も多い町内であり、閉じこもりがちな高齢者も多く、団地内での関わりが希薄なことが課題であった。今年度のUR地域医療福祉拠点化事業と連携して、外出機会や交流、身体を動かすきっかけづくりを目的としてウォーキングイベントを開催した。</p> <p>♪ 団地と周辺地域をウォーキング♪ 親子連れから高齢者まで幅広い層の参加があり、和気あいあいと交流。「楽しかった」「また企画してほしい」などの嬉しい声が聞かれた。</p> <p>♪ 宝探しウォーキング♪ 宝台団地のマップを使って、団地内に隠された宝物を探すミッション付きのウォーキング。グループ毎に相談しながら盛り上がり、終始笑顔が絶えないイベントとなり、地域住民同士が親しくなるきっかけにもなった。</p>  <p>第1弾 5/8</p> <p>第2弾 12/4</p>
高齢者地域支援会議開催状況	会議開催校区数：4校区、延べ回数：6回 検討内容：高齢者を見守るネットワークづくり、校区交流会（見守りマップ作成）、校区の社会資源についてなど
<b>③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取り組み</b>	
<b>医師とケアマネジャーの連携で大切な事</b>	
<b>城南区ケアマネジャー研修会</b>	
<p>「医療連携がうまくいかない」というケアマネジャーが多いことから、令和2年度に「チームを動かすコミュニケーション」をテーマに研修会を開催したが、受講後アンケートを分析するとケアマネジャー自身の対応や認識にも課題があることがわかった。そのため、令和4年度は①医療連携の必要性を理解することができる②医療連携や対応についての課題に気づき、より積極的に医療の連携ができることを目的に、研修会を実施した。講話により、医師側のケアマネジャーとの連携に対する姿勢の一端を具体的に紹介され、医師への苦手意識の軽減につながったと考える。グループワークではそれぞれのケアマネジャーの考え方や業務のやり方を聴くことで、ケアマネジャー同士の交流にもなり、自分の業務の振り返りを行う機会となった。</p>	
圏域連携会議開催状況	・会議回数：1回（第1圏域（城南・別府・鳥飼校区）） ・検討内容：第1圏域エリアの相談状況・虐待対応等の情報共有、事例検討、事業所等顔の見える関係づくり
<b>④ 区レベルの取り組み</b>	
<p>【講演会】①民生委員児童委員協議会高齢者部会研修会にて講演会：在宅医療「住み慣れた場所で最期まで過ごすために大切なこと」を実施。老いをどう受け入れるか、実際の認知症の人の支援について理解を深める機会となった。参加された民生委員・児童委員にアンケートを実施。今後の生活、医療・療養について考えている人や、自分の意思を書面にすることには賛成している人が多いが、実際に行動に移している人はまだまだ少ないのが現状であることがわかった。</p> <p>②医療・介護に従事する職員向けに「もしバナゲームを活用した研修会」：ACPの理解につながったが、ACPを知らない方も多く、意思決定支援の難しさを再認識し、専門職の質の向上を目指していかなければならないと感じた。</p>	
区地域包括ケア推進会議開催状況	・区地域包括ケア推進会議：1回 高齢者保健福祉相談事業等報告、地域包括ケアに関する取り組み報告等 ・専門部会：①在宅医療・介護部会：1回 ②権利擁護部会：1回 ③生活支援・介護予防部会：台風のため紙面開催
<b>(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取り組み、事業所ネットワークの活動等</b>	
<b>取り組み</b>	<b>具体的内容</b>
多職種連携研修会（医師会委託事業）	区内3ブロックの拠点病院が中心となって、ブロック毎の研修会をオンラインで開催。 ・Aブロック：「軽度認知症患者の退院支援について」グループワーク ・Bブロック：「地域で取り組むACP(アドバンス・ケア・プランニング)～人生会議～」講演、意見交換 ・Cブロック：「オーラルフレイル(口腔機能の低下)と低栄養-その対策と予防-」パネルディスカッション
在宅医療に関する市民講座（医師会委託事業）	福大病院健康セミナーYouTube版で、「住み慣れた地域で自分らしく～在宅医療と介護について～Ver 3」をテーマに講演会を配信。 ①「どんな方にも『家に帰る』選択肢を」 ②「高齢者の健康と在宅診療」 ③訪問看護の活用について
同一業種による連絡会開催 ①ケアマネ連絡会、主任ケアマネ連絡会 ②訪問看護ステーション連絡会 ③地域密着部会	①新型コロナウイルス感染症の影響で約2年間の活動休止を経て、合同での世話人会を開催。 ②県訪問看護ステーション連携強化事業はR3年度までで終了。連絡会や勉強会の後方支援(年4回実施)。 ③世話人会を1回開催、全体での情報交換会を計画するも、新型コロナウイルス感染症対応により中止。
事業所ネットワークの活動	校区単位や圏域を超えた範囲で地域貢献・共働きの活動や個別ケースへの支援等を行うネットワークが3つ結成している。2事業所ネットワークは新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を休止していたが、R4年度は活動を再開し始めている。1事業所ネットワークはコロナ禍においても連絡会の開催や連携して個別ケースへの支援を継続して実施しており、当課は後方支援を行っている。